

ぎふの 埋蔵文化財

まぎふ

特集

平成21年度 発掘速報展

「ひだ発掘最前線」

2009年度調査事業計画

「のぞいてみよう！
今年の遺跡」

考古学教室16

さまざまな「土坑」の機能
～発掘調査で発見する各種の穴～

センター情報ボックス

センター年間行事予定ほか

1 荒尾南遺跡 (大垣市荒尾町・松町)

縄文 弥生 古墳
古代 中世 近世

平成18年度から続く荒尾南遺跡の調査は今年度で4年目を迎えます。過去の調査では、弥生時代中期から古墳時代前期の遺物が多数出土し、その数は100万点以上を数えています。また、青銅製鏡・銅鐸片・巴形銅器・弧帯文土器などの特殊な遺物も含まれています。弥生時代中期の方形周溝墓や弥生時代後期から古墳時代前期までの竪穴住居跡も多数あり、県内有数の集落が形成されていたことが明らかになってきています。昨年度は、遺跡西部において河川跡を確認し、その岸辺に弥生時代後期から古墳時代前期にかけて「水辺の祭祀」に用いたと考えられる土器が多量に出土しました。また、遺跡南部では弥生時代末から古墳時代前期の墳丘墓を確認しました。今年度は約10,000㎡の調査を実施し、整理作業では遺跡北西部の調査データをまとめていく予定です。整理していく中で、遺跡における集落や墓域の変遷、また、集落内における具体的な生活の痕跡、さらには地域間交流を知る手がかりが明らかになってくるのではないかと期待しています。



弧帯文土器

事業者:国土交通省中部地方整備局岐阜国道事務所
事業名:平成21年度東海環状自動車道(養老JCT~大垣西IC)に伴う埋蔵文化財発掘調査

2-1 岩田西遺跡・岩田東A遺跡 (岐阜市岩田西)

縄文 弥生 古墳
古代 中世 近世

岩田西遺跡は、長良川の水流によってつくられた自然堤防上及び後背湿地上に位置しています。昨年度の調査で、古墳時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡、室町時代の土坑、溝、水田区画などを検出し、土師器や須恵器、灰釉陶器、中近世陶磁器などが数多く出土しました。今年度の発掘調査は昨年度の範囲から北に拡げて行きます。また、岩田東A遺跡は長良川により形成された河岸段丘上に位置します。平成19年度に岐阜県教育委員会社会教育文化課が実施した試掘確認調査において、中世の土坑、溝、ピットなどが検出され土師器や須恵器、中近世陶磁器などが出土しました。



発掘作業風景 (H20)

今年度の発掘調査で、この地域の先人による生活の営みが明らかになることが期待されます。

事業者:国土交通省中部地方整備局岐阜国道事務所
事業名:平成21年度国道156号岐阜東バイパスに伴う埋蔵文化財発掘調査

5 下切遺跡 (下呂市金山町中切)

縄文 弥生 古墳
古代 中世 近世

下切遺跡は、下呂市金山町の飛騨川の河岸段丘上に位置します。平成20年度の発掘調査では、縄文時代の竪穴住居跡4軒、古代の竪穴住居跡12軒、中近世の掘立柱建物跡6棟・礎石建物跡2棟等を確認しました。古代の集落跡は、律令政府による地方の官道整備に伴って築かれた官道が整備されてから移り住んだ人々の営みによるものである可能性が考えられます。

今年度は、平成20年度調査区の南側に位置する870㎡の発掘調査と整理作業を行います。今後、集落の具体的な様子がさらに分かってくるのではないかと期待しています。

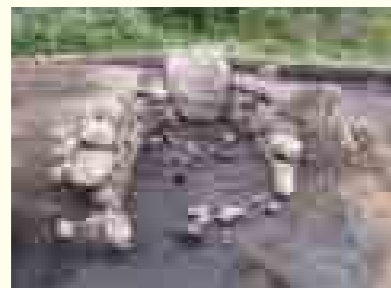


発掘作業風景 (H21)

事業者:国土交通省中部地方整備局高山国道事務所
事業名:平成21年度中部縦貫自動車、高山国府BP及び下原改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

2-2 中屋敷遺跡 (岐阜市岩田西)

縄文 弥生 古墳
古代 中世 近世



中屋敷古墳の横穴式石室

当遺跡は、長良川によって形成された河岸段丘中位面上に位置します。平成20年度に発掘調査を実施し、古墳時代と室町時代を中心とする遺構を発見しました。そのうち、中屋敷古墳と命名された古墳は直径約15m以上の円墳で、中央に横穴式石室があります。また、地表からの竪坑を経て地下室に至る構造をもつ室町時代の地下式坑や、方形に巡る区画溝、区画溝内に位置する室町時代~江戸時代頃と考えられる掘立柱建物跡3棟なども発見しました。

遺物は、須恵器・土師器・中近世陶磁器などが約10,000点出土しました。

事業者:国土交通省中部地方整備局岐阜国道事務所
事業名:平成21年度国道156号岐阜東バイパスに伴う埋蔵文化財発掘調査

3 広畑野口遺跡 (各務原市蘇原青雲町)

縄文 弥生 古墳
古代 中世 近世

平成19・20年度に発掘調査を行い、奈良時代の掘立柱建物跡7棟、柵跡2列、多量の須恵器が出土した土坑群1カ所を確認しました。掘立柱建物跡の配置は、8世紀前半代の地方官衙に多い真北方向に長い建物とこれに直角となる方向に長い建物で構成されます。また、この建物跡の内側には建物跡のない空間や建物を囲む南北方向の柵跡を確認でき、建物を含めた規則的な配置を確認しました。この建物群の周辺からは、文字を書く役人の必需品である円面硯等の遺物が多く出土していることから、掘立柱建物跡群は官衙に関連する遺構の可能性が高いと考えられます。

今年度も引き続き整理作業を進めていく中でこの建物群の様子が分かってくるのではないかと期待しています。



円面硯

事業者:都市建設部 岐阜土木事務所
事業名:平成21年度公共緊急地方道路整備事業((都)岐阜輪沼線)に伴う埋蔵文化財発掘調査

4 東町3・4号古窯跡

縄文 弥生 古墳
古代 中世 近世

当遺跡は多治見市市街地の東、土岐市との境にある丘陵上に立地した古窯跡です。主に15世紀中頃の山茶碗を焼いた窯と考えられています。現在は物原(灰や不良品の破棄場)を中心とした遺構が残っておりこれらの発掘調査・整理作業をします。

事業者:県土整備部多治見土木事務所
事業名:平成21年度公共住宅市街地基礎整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

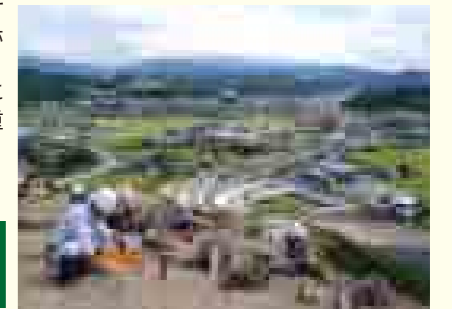
6-2 三枝城跡 (高山市上切町)

縄文 弥生 古墳
古代 中世 近世

三枝城跡は、高山ICの北に隣接した戦国時代の山城跡で、飛騨を支配した三木氏が縁があると考えられています。平成20年度の発掘調査(6,110㎡)では、主郭の北東尾根筋に曲輪群を確認するとともに、攻撃用に集められた川原石や狼煙場と考えられる岩盤の被熱痕など、城の働きを示す痕跡を発見しました。北東曲輪群は南・東・北を見渡することができ、東側を通る当時の主要道を監視するための施設と考えられます。山麓に造られた平場では、須恵器や土師器などが出土し、中央がすり鉢状に掘り込まれた平安時代の竪穴住居跡などを確認しました。

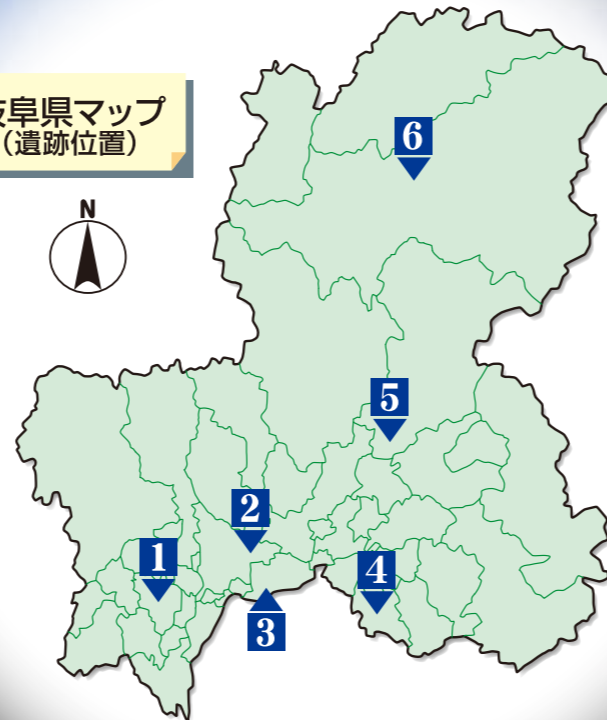
今後の整理作業で、三枝城の姿を明らかにするとともに飛騨の山城を研究する上で貴重な手がかりを得られるものと期待しています。

事業者:国土交通省中部地方整備局高山国道事務所
事業名:平成21年度中部縦貫自動車、高山国府BP及び下原改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査



発掘作業風景 (H20)

岐阜県マップ (遺跡位置)



準備進む

「ひだ発掘最前線」

当センターでは、近年、中部縦貫自動車道高山インターチェンジとその周辺区域において、大規模な発掘調査を相次いで行いました。今秋、それらの調査で明らかとなった最新の成果を公開する発掘速報展「ひだ発掘最前線」を高山市で開催します。高山市国府町にある当センター飛騨駐在事務所では、土器の復元をはじめとする展示準備作業を進めています。



遺跡の位置(高山市上切町、平成15年撮影)

野内遺跡は、平成14年度から18年度にかけて発掘調査を実施した大規模な遺跡です。古墳時代から平安時代にかけての集落跡と水田跡などが見つかりました。

ウバガ平遺跡は平成13年度と19年度に調査を行いました。多数の弥生土器が出土したことで注目されました。

また、戦国時代の城跡として知られる三枝城跡の調査を、平成18年度と20年度に行いました。城の曲輪跡を確認したほか、新たに平安時代の住居跡なども発見しました。

野内遺跡の木器

飛騨地方最多の木器が出土しました。古墳時代の鎌、平安時代の下駄など、当時の形をそのままとどめているものも多数あります。これらの木器の公開は、飛騨地方では今回が初めてとなります。



平安時代の下駄



ナスビ形鎌

四又鎌

古墳時代の鎌

平成21年度 発掘速報展「ひだ発掘最前線」 観覧無料

期間 平成21年10月2日(金)～11月8日(日) 9:00～16:30

会場 高山市風土記の丘学習センター(高山市赤保木町)

※月曜・火曜・祝日は休館

ウバガ平遺跡の弥生土器と石器

※ウバガ平遺跡については、7月11日開催の「岐阜県発掘調査報告会」でも概要を報告します。

外面に横方向の矢羽状文様を飾る横羽状文甕が出土しました。これは、弥生時代中期の飛騨地方だけにみられる珍しい土器です。今回の調査で、ほぼ完全な形のものが見つかりました。また、文様の刻み方にいくつかのパターンがあることもわかりました。右の写真のように、長身で優美なプロポーションを持つものもみられます。

同じころに使われた石器も見つかりました。左は北陸地方の石、右は信州の石で作られており、当時の地域間交流をうかがうことができます。



へんぺいかたば せきふ 扁平片刃石斧



ふとがたはまぐりば せきふ 大型蛤刃石斧



横羽状文

弥生時代の横羽状文甕

三枝城跡の平安時代住居跡

三枝城跡の発掘調査では、戦国時代の城跡の調査中に、平安時代の土器が出土する平場を発見しました。現在、破片の接合を行って元の形を復元する作業を行っています。金属器を模倣して作った須恵器の鉢など、普通の集落では使わないような珍しいものもみられることがわかってきました。平場付近から見つかった平安時代の竪穴住居跡には石を組んで作ったカマドがあり、その中には煮炊き用の甕が残っていました。

野内遺跡との関連性からも、注目される遺跡です。



平安時代のカマド跡(三枝城跡)

■ 土坑 ～発掘調査で発見する各種の穴～ ■

発掘調査では、多くの穴が見つかります。それらは堅穴(たてあな)住居(じゅうきょ)や柱穴の跡、掘立柱建物(ほったてばしらたてもの)の柱穴の跡、墓穴、炉跡など人間がある目的をもって造ったものから、動物や植物など自然の力によってできあがった穴まで様々な穴が発見されます。それらの穴に関わる様々な情報を集め、人間が目的をもって造ったものかどうかをつきとめ、さらにその目的とはいったい何だったのかをはっきりさせることが調査の重要なポイントとなります。

堅穴住居跡は多くの場合、柱穴など様々な付属施設があり、「穴の機能」がわかりやすいものですが、中には、とりあえず古い時代の人々が造った穴だということはわかって、それがどんな機能を果たしていたのか即断し難いものが数多くあります。

住居として住んでいたと考えると、最低でも円形であれば直径が3～5m程度のもの、四角ければ1辺が3～5m以上なければ住みにくいだろうと考えます。となると直径や一辺が3m以下の穴になると多くの場合「土坑」と名付けて調査を進めることになります。



石を伴った土坑2(第5号集石遺構)



立石を伴った土坑

■ 縄文時代の土坑 ■

揖斐郡揖斐川町にある岩井谷(いわいだに)遺跡(旧春日村)の調査では、縄文時代の土坑を約80基発見しました。その多くは直径0.5～2m程度の円形のものでした。それらをよく観察すると、一見同じような土坑でも、当時はまったく異なった用途で使用されていたと考えられるのです。

第4号集石遺構は、1.1m×0.8mの不整楕円形をした土坑で上層部分に15～20cmの角ばった石が集まっていました。明らかな焼土は確認できませんでしたが、土坑底部から炭化物が出土しています。調査状況から調理用の炉として機能していたと判断しました。この遺構の時期については、出土した炭化物の年代測定分析結果をもとに、縄文時代早期の終わり頃と考えています。周辺には類似する遺構がいくつか見つかりました。そこからは縄文時代早期後葉の土器が出土しているので、おそらく縄文時代早期の終わり頃に使われていた遺構だと判断しました。



石を伴った土坑(第4号集石遺構)

一方、第5号集石遺構は、1.3m×0.9mの不整楕円形をした土坑の上層部分に15～30cmの石が集められていました。掘り込んだ穴の上層部分に石が集まっているという点で、第4号集石遺構とよく似た状況でした。ただこの遺構は出土した土器から、縄文時代後期に所属する遺構であると判断でき、第4号とは2,000年以上の隔りがあることがわかりました。

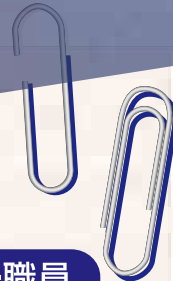
■ 時期と用途の違い ■

さらに、第5号集石遺構に埋まった土をよく観察すると、単一の層で炭化物が含まれておらず、集められた石も大きい直径のもの割合が高く、熱をうけていませんでした。さらに周辺には、やはり縄文時代後期の立石(りっせき)を伴った土坑や、日常生活で使用するとは考えにくいミニチュア土器が出土した土坑など祭祀(さいし)や儀礼を連想させるような遺構が集中して見つかりました。これらの状況からは少なくとも第4号集石遺構のような調理用炉としての機能は考えにくく、他の調査事例からお墓の可能性が高いと考えています。

岩井谷では、縄文時代早期にキャンプサイトのな生活が営まれていた場が、後期には墓域として活用され、何らかの儀礼行為もなされていた可能性があることが想定できます。

このように調査時にわかる様々な土坑の情報から考えていくと、よく似た状況で発見されても、それぞれの時期の違いはもちろんのこと、用途が全く異なるものであることがわかってきます。さらに周辺の状況から、時期によってその地がどのような生活状況であったのかがわかり、情報量によっては集落の変遷までわかってくるのです。

センター情報 ボックス1



岐阜県文化財保護センター職員

センター年間行事予定

■教育普及事業予定

【7月 11日(土)】

岐阜県発掘調査報告会
(関市文化会館小ホール13:00~)

【7月 23日(木)】

タイムスリップ探検隊—親子で発掘体験—
(荒尾南遺跡:大垣市)

【10月 2日(金)~11月 8日(日)】

発掘速報展「ひだ発掘最前線」
(風土記の丘学習センター:高山市)

■現地説明会(平成21年4月7日現在)

【7月 4日(土)】下切遺跡(下呂市)

【10月 3日(土)】岩田西遺跡・岩田東A遺跡(岐阜市)

【11月14日(土)】荒尾南遺跡(大垣市)

■展示予定

- ・県民ふれあい会館2階
「生涯学習センター展示コーナー」
- ・文化財保護センター本館
- ・飛騨駐在事務所



所	長	後藤	満
■総務課			
課主	長 査	長 屋	忠 司
主 雇	任 員	高 井	和 子
		山 崎	護 朗
		中 村	菜 穂
■調査課			
課主	長 査	小 谷	和 彦
調査第一担当チーフ	長 補 佐	早 野	壽 人
課 長	長 補 佐	河 瀬	実 浩
課 長	長 補 佐	北 川	真 司
主 査	主 査	春 日	井 恒
学 芸 主	芸 芸 主	野 々 田	光 則
学 芸 主	芸 芸 主	鷺 見	博 史
主 査	任 員	柏 木	賢 一
調査第二担当チーフ	長 補 佐	谷 村	和 男
課 長	長 補 佐	石 井	照 久
課 長	長 補 佐	藤 田	英 博
学 芸 主	芸 芸 主	北 村	昌 弘
学 芸 主	芸 芸 主	小 林	郁 夫
主 査	任 員	小 野	木 学
主 査	任 員	三 島	誠 枝
主 雇	任 員	近 藤	正 祐
		山 田	祐 子
<飛騨駐在事務所>			
飛騨調査担当チーフ	主 査	森 下	茂 司
主 査	任 員	小 淵	忠 司
教 育 主	任 員	稲 垣	洋 志
教 育 主	任 員	中 澤	正 樹
雇 員	任 員	村 田	明 美

センター日誌

- 3月31日(火) 職員転出9名
- 4月 1日(水) 職員転入8名
- 4月13日(月) 整理作業開始(飛騨駐在事務所)
- 4月14日(火) 整理作業開始
- 4月28日(火) 荒尾南遺跡発掘調査開始
- 4月30日(木) 岩田西・岩田東A遺跡発掘調査開始
- 5月 1日(金) 下切遺跡発掘調査開始

ミニ展示のお知らせ (県民ふれあい会館)

ふれあい会館2階の展示コーナーではセンターが調査した遺跡や遺物の紹介を行っています。今年度は年3回の展示を予定しています。現在は「重竹(しげたけ)遺跡」(関市)の展示を行っていますので、ご来場をお待ちしています。



センター情報 ボックス2

発掘調査報告会のご案内

平成21年度 岐阜県発掘調査報告会 7月11日(土) 13:00~16:00
関市文化会館小ホール(関市桜本町2丁目)

県民の皆様へ埋蔵文化財に対する理解を深めて頂く目的で毎年夏に発掘調査報告会を開催しています。今年度は関市文化会館を会場とし、次の遺跡の事例発表を中心に行います。出土した遺物も展示しますので、ぜひご参加下さい。

事例発表Ⅰ	各務原市	山田寺跡
事例発表Ⅱ	各務原市	広畑野口遺跡
事例発表Ⅲ	高山市	ウバガ平遺跡
事例発表Ⅳ	関市	池尻大塚古墳



▲昨年の発表の様子

「出前授業」「職場体験」「発掘体験」「見学」等のご希望にお応えします。

文化財保護センターでは、子どもたちの「本物の土器を見てみたい、触ってみたい」「発掘調査を体験してみたい」「職場体験をさせてほしい」という声や、一般の皆さんの「考古学についてわかりやすく教えてほしい」という声にお応えしています。ご希望がありましたら、当センターまでお気軽にご相談下さい。



▲タイムスリップ探検隊参加者の皆さん
(H20年度三枝城跡にて)



▲職場体験で訪れた生徒さん
(文化財保護センターにて)



▲土器から当時のくらしを考える児童の皆さん
(出前授業の様子)

岐阜県文化財保護センターは今年度から県の教育機関になりました。(昨年度までは財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター)

それに伴いメールアドレスも下記に変更しました。

新アドレス

e-mail : c27221@pref.gifu.lg.jp

●岐阜県文化財保護センター●

〒502-0003 岐阜市三田洞東1-26-1
TEL.058-237-8550(代)
FAX.058-237-8551
e-mail:c27221@pref.gifu.lg.jp

●飛騨駐在事務所●

〒509-4122 高山市国府町名張字峠1425-1
TEL.0577-72-4784(代)
FAX.0577-72-4690